

シナイ山とシオン山

ヘブル人への手紙 12:18~22



12:18 あなたがたは、手でさわれる山、燃える火、黒雲、暗やみ、あらし、

12:19 ラッパの響き、ことばのとどろきに近づいているのではありません。このとどろきは、これを聞いた者たちが、それ以上一言も加えてもらいたくないと願ったものです。

12:20 彼らは、「たとい、獣でも、山に触れるものは石で打ち殺されなければならない。」というその命令に耐えることができなかったのです。

12:21 また、その光景があまり恐ろしかったので、モーセは、「私は恐れて、震える。」と言いました。

12:22 しかし、あなたがたは、シオンの山、生ける神の都、天にあるエルサレム、無数の御使いたちの大祝会に近づいているのです。

ヘブル人への手紙の目的

ヘブル人とはユダヤ人のことです。初代教会のユダヤ人達は激しい迫害を避けようとして古いユダヤ教の儀式や習わしに戻りつつあったのです。この手紙は迫害を受けているキリスト者達にキリストイエスにある恵みにとどまり続けるようにと励ます手紙でした。

シナイ山

シナイ山はモーセが十戒を受けた山で、神の聖なる山です。12:18~12:21では、シナイ山は神の人モーセですら、聖く近付き難く、恐れ震えていました。

ユダヤ人クリスチャンの悩み

ユダヤ人クリスチャンにとって、イエスへの信仰を持って歩む時、様々な迫害が現実にあったことでしょう。本当にイエスへの信仰は、そんなひどい目に会うほどの価値があるのだろうか悩んだはずです。

明日は何が自分を待ち受けているか分からない、「イエスを信頼して前に向かって進め」と励まされても、自分がよく知っている律法の教えで行動する方が、心が落ち着いたりしたのではないのでしょうか？

元の関係・生活の方が楽

家庭内暴力を受けている被害者が一度逃げ出せた虐待の人間関係に、なぜか戻ってしまっていくのはなぜでしょうか。普通に考えると、虐待される関係から抜け出せ、安心して生活出来るはずなのに、なぜ元の関係に戻るのか、と不思議に思います。

しかし、新しい生活は、将来を一人で生きねばならず、全てが今までと違い、先が見えない、不安になる、結局、今までなんだかんだと自分がわかっている生活に戻る方が楽だ、ということになるというのです。



信仰生活がマンネリ化して、なにか喜びが無くなった、なんて思えることがありませんか？信仰を持って歩もうとすると、大きな壁や小さな妨げがいろいろ起きて、本当に信仰を持つことに価値があるのだろうか、なんて悩んでいませんか？

それはもしかしたら、あなたが、「シナイ山」に足を運んでいたり、「シナイ山」とどまっているのではないのでしょうか。

律法主義

「律法主義」とは、形式にこだわるあまり、結果的に神の律法に反してしまうこと。

パリサイ人たちの生き方は、まさにそのようなものでした。

パリサイ人たちがこだわったのは、「先祖たちの言い伝え」を遵守することでした。「先祖たちの言い伝え」とは、「口伝律法（ミシュナの律法）」のことです。口伝律法は、モーセの律法（613の戒めがある）の周りに張り巡らされた垣根のようなものです。

パリサイ人たちの間では、口伝律法が聖書（モーセの律法）と同じ権威を持っていました。ある場合には、聖書以上の権威があると考えられていました。

安息日の主

イエスはそこを去って、会堂にはいられた。そこに片手のなえた人がいた。そこで、彼らはイエスに質問して、「安息日にいやすことは正しいことでしょうか。」と言った。これはイエスを訴えるためであった。

イエスは彼らに言われた。「あなたがたのうち、だれかが一匹の羊を持っていて、もしその羊が安息日に穴に落ちたら、それを引き上げてやらないでしょうか。人間は羊より、はるかに値うちのあるものでしょう。それなら、安息日に良いことをすることは、正しいのです。」

（マタイ12:9～12）

クリスチャンと律法

今は恵みの時、今は救いの日です。

（2コリント6:2）

あなたがたは律法の下にはなく、恵みの下にある （ローマ6:14）

神は私たちに、新しい契約に仕える者となる資格をくださいました。文字に仕える者ではなく、御霊に仕える者です。文字は殺し、御霊は生かすからです。（2コリント3:6）

新約聖書には、私たちがどのように生きるべきかについての教えが書かれています。しかしそれらは従うべき宗教的規則ではなく、主が私たちを通して現わされる様々な形なのです。

信仰生活とは、私たちを通して、神ご自身が現わされることです。このために、今は、キリストが私たちのうちに住まれ、御霊の助けが備えられています。

父がわたしを愛されたように、わたしもあなたがたを愛しました。わたしの愛の中にとどまりなさい。（ヨハネ15:9）

神が願っておられることは、神のために、あるいはキリストのために何かをすることではなく、キリストと共にあること、キリストのうちに、キリストのことばに、キリストの愛の中にとどまることです。

信仰によって

信仰が現われる以前には、私たちは律法の監督の下に置かれ、閉じ込められていましたが、それは、やがて示される信仰が得られるためでした。こうして、律法は私たちをキリストへ導くための私たちの養育係となりました。私たちが信仰によって義と認められるためなのです。

しかし、信仰が現われた以上、私たちはもはや養育係の下にはいません。あなたがたはみな、キリスト・イエスに対する信仰によって、神の子どもです。（ガラテヤ3:23～26）

大祝会に近づいている

今回は2つの山の対比によってモーセの律法がもたらしたものとイエス様がもたらされるものが対比されています。あなたが目指すゴールは、「地上のシナイ山」ですか。それとも「天にあるシオンの山」ですか。

「天にあるシオンの山」には、私たちの先導者であり完成者である主イエス様がおられます。キリストはご自身の血によってすべての罪を永遠に取り去られました。

ただこの方を見上げ、この方が辿られた道筋を歩んで参りましょう。私たちのゴールは、生ける神の都、天のエルサレムです。

しかし、あなたがたは、シオンの山、生ける神の都、天にあるエルサレム、無数の御使いたちの大祝会に近づいているのです。（ヘブル12:22）